



ゲストスピーチ 米山奨学生 ウ・セイさん

会長挨拶 会長 鈴木孝純君

まだまだ、暑い日が続いております。一昨日の8月30日は三重県桑名市、埼玉県鳩山町、埼玉県熊谷市、静岡県浜松市の4地点で最高気温が40℃超を観測、昨日は愛知県名古屋で40℃を記録しました。今日から9月ですが、今月も全国的に残暑厳しく、秋の訪れも遅いとのこと。ただ、ここ庄内の夜は虫の音も多く聞かれるようになり、着実に秋に向かってきているようです。

ここで、再度旧暦について取り上げたいと思います。旧暦における1か月は月の満ち欠けを基準としていました。ところが、月が地球の周りを一巡する日数は約29.5日で、12か月では354日となり、太陽暦より11日短くなります。これを繰り返すと真夏に正月が来る可能性があり、約3年に一度閏(うるう)月を設けて13か月とすることによって太陽年との差を調整しました。これが旧暦である太陰太陽暦です。ちなみに、今年の旧暦は6月の次にさらに閏6月が来る13か月です。このため、今週の9月4日が旧暦の7月13日にあたり、昨年は8月16日、一昨年は8月28日にあたっておりました。このように、昔のお

盆は今のカレンダー(新暦)に照らし合わせると毎年月日がずれております。また、中秋の名月(十五夜)は秋の

真ん中の月日、つまり旧暦8月15日の月を意味しており、今年の新暦では10月6日にあたります。

旧暦から新暦に変わっても旧暦の慣習が残っているものもあります。旧暦の1月～3月は「春」の季節にあたり、これから厳しい冬に向かう正月(1月)にもかかわらず、年賀状などでは「新春」や「迎春」などの言葉を使っています。一方、月の運行に基づく太陰暦の時代、農作業などにおいてはどうしても正確な季節を知る必要がありました。今から約2500年前の古代中国において、季節との整合性を高めるために1太陽年を24等分してつくられたものが「二十四節気」です。これは太陽の動きをもとにしていることから、新暦上でもほぼ同じ時期に現れ、今でも季節の移り変わりを知るうえで役立っています。

春分、清明、穀雨、立夏、小満、芒種、夏至、小暑、大暑、立秋、処暑、白露、秋分、寒露、霜降、立冬、小雪、大雪、冬至、小寒、大寒、立春、雨水、啓蟄

来週の例会日9月8日(月)は、野に白露が宿り、虫の音が美しいとされる二十四節気の「白露」にあたります。

残暑厳しい折柄、ご自愛專一にてお願い申し上げます。



タクトつるおか共同企業体
事業企画 主事 五十嵐咲紀様 主査 川村 広宣様



誕生祝い

幹事報告 小野寺佳克君

- 地区大会 開催のご案内
(申込締切：9/29)
11/8-9 寒河江文化センター
- 『チャリティーゴルフコンペ』『ポリオ募金』
9/23 ニューブラッサムガーデンクラブ